

令和2年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

I 自己評価

1 学校教育目標	校訓「自主積極」の精神のもと、真理と正義を愛し、個人の価値観を尊び、自由と責任を重んじ、心身ともに健康で、国際社会や地域社会に貢献できる心豊かな人材を育成する。 実践項目（1）基礎学力の定着 （2）さわやかな挨拶の励行 （3）部活動の充実 （4）環境美化の推進	
2 評価する領域・分野	◇学習指導	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・各教科の習熟度別授業や少人数授業が学習の理解につながっていると、生徒・保護者の大多数が回答している。この結果より、現在実施している授業形態が受け入れられ、基礎学力の定着には有効であると考える。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇基礎学力の定着 ◇個々の生徒の学力伸長	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・教務部、進路指導部、学年会、各教科の連携・協力体制	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
（1）指導内容の重点化、明確化 （2）基礎学力の定着に向けた独自教材の開発や授業改善の取組	（1）授業を理解できる生徒	70%以上
	（2）教材開発に取り組む教師	80%以上
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
・毎時間の学習目標の提示により、学ぶ内容を明確にし、授業に対する意欲や関心を高めた。 ・少人数指導（T.T.、習熟度別、選択授業）を実施し、効果的な学習指導に努めた。 ・各教科において、基礎学力の定着に向けた教材開発や授業改善に取り組んだ。	①学習目標の提示、内容の明確化	Ⓐ B C D
	②学習に対する意欲・関心・態度	Ⓐ B C D
	③教材開発、授業改善の取組	A Ⓑ C D
11 成果 ○授業の始めに、本時の学習目標を示し、生徒が学習内容を前もって理解し、見通しをもって取り組める指導が定着した。 ○少人数指導においては、特に「習熟度別授業」において、「学習内容を理解できる」と学習実態調査で回答した生徒の割合が多く、効果が表れている。 ▲学習実態調査から、日々の家庭学習に取り組む生徒が少ない状況が明らかになり、家庭での学習習慣を身につけさせる指導が必要である。		総合評価 A Ⓑ C D
12 来年度に向けての改善方策案	・基礎学力の定着に向け、各教科において、独自教材の開発や授業改善に継続して取り組む。 ・主体的学習態度の育成のため、学習意欲が高まる工夫と指導を行い、さらに家庭学習の習慣化を図る教材を開発する。 ・授業規律を徹底し、生徒が自ら学び、集中して授業に取り組める環境を確立する。	

II 学校関係者評価

実施年月日：令和3年2月22日

【意見・要望・評価等】

- ・学習環境、授業規律、教材研究等について、先生方の取組が成果につながっていると思います。根気よく指導を続けていただきたいと考えます。
- ・課題にある家庭学習の習慣を身につけさせるためには、各教科ごと、学年、学校全体でチームとして推進策を検討していただきたいと思います。（例えば、学習ノートを作成し、一ヶ月、学期、1年、3年と継続していき、学びの可視化と基礎学力の定着を図る手立てとする等）
- ・習熟度別授業、少人数指導等の取組が有効である事は、生徒、保護者にも認められ、成果に繋がっているため今後も楽しみです。

- ・課題として出ている「家庭学習」の習慣化について・・・は、小学校の段階で身に付けるべく習慣が中学校でもできていなくて、今の現状に至る生徒（子ども）たちに習慣化を図るのは大変に困難な問題かと思うところではあります。しかし、少しでも今の状態より向上を期待するならば、先生方の大変なご苦勞を察しますが、生徒の意欲を引き出す指導、教材の工夫が必要だと思います。保護者の理解、協力も必須です。将来の目標ができることが、一番の意欲向上の近道かと思います。
- ・学校評価アンケートにおいて、少人数授業で理解できる生徒が7割になっているのは、聞きやすい環境なのだと思います。基本を頑張る生徒、応用を頑張る生徒など色々な生徒に対応できているのがよい。
- ・指導内容の明確化、目標の提示により、授業に対する意欲が上がったことは、大変良いことだと思われる。
- ・理想ではありますが、与えられる授業ではなく、自ら進んで学ぶ姿勢になる生徒さんが増えればよいですね。
- ・家庭学習の習慣化を図るには、どうすればよいのかの研究が必要である。

11 成 果 課 題	<p>○昨年度から、生徒指導部では、カウンセリングマインドを踏まえた生徒との関わり（関係作り）を教員全体に呼びかけ、取り組んできた。その結果、教師の言葉に耳を傾ける生徒が増え、学校全体の雰囲気が落ち着きだした。心理検査でも、本校の生徒の特長として、教員に話を聞いてもらっていることの満足度の数値が高いことが挙げられていた。</p> <p>▲生徒の実態がより多様化・複雑化し、それらの生徒がもつ課題（特に近年は心理面・社会面の発達に課題を抱える生徒が増加）に十分に対応するだけの余力がない。今後の生徒指導の在り方を模索・検討していく必要がある。</p>	<p>総 合 評 価</p> <p>A (B) C D</p>
12	<p>来年度に向けての改善方策案</p> <p>(1) 授業規律や身だしなみ等の指導を、生徒との関係作りを踏まえて実施する。保護者や地域の方々の理解・協力を得られる方策を検討する。</p> <p>(2) 複雑化・多様化する生徒の実態を理解したうえで、個々の生徒に対し的確に指導援助するための手法を模索し、共有する。</p> <p>(3) いじめに対する意識を常に高く持ち、よりの確な対応が図れるようにする。</p> <p>(4) 担任・学年・生徒指導部と段階を踏まえた指導を実践する中で、学校が1つのチームとして機能するよう働きかける。</p>	

II 学校関係者評価

実施年月日：令和3年2月22日

【意見・要望・評価等】

- ・「学校全体の雰囲気が落ち着きだした」という成果は、先生方が生徒との関係づくりに向き合われ、情報共有を図られた結果だと思います。全体と個の指導には困難が付きまとうと考えますが、今後も報連相を大事にされ指導していただきたい。
- ・本来の学校生活ができなかった中でのアンケート結果ですが、「いじめ」に対する問題意識が高まっていることはよい。（いじめは許さないという気持ち）
- ・日々の生活での先生方の取組（地道な）が評価され成果となってできたことは嬉しいです。
- ・問題行動を起こした生徒への特別指導（アフターケア）は勿論、教育相談で心のケアを必要とする生徒を一人でも多く救える様、寄り添う目と心をこれからも持ち続けてほしいです。
- ・「基本的生活習慣の確立」これもまた、高校生で今更と言いたいところですが、社会に貢献できる1人の人間として最低限必要なもの（事）が何かを理解させることが必要です。
- ・半分大人の生徒たちに1つずつ丁寧に指導することは大変なことですが、少しずつ、一歩ずつお願いします。
- ・生徒と先生の関係が良好なことに安心。
- ・まずは爽やかな挨拶が基本だと思います。社会に出て「礼節と挨拶」ができれば仕事は後からついて来ると感じます。
- ・生徒さん、保護者さんの多様化、複雑化は感じるどころです。我々の時代の常識が通用しなくなってきました。しかし、基本はしっかり身に付けてほしいものです。
- ・近い将来、社会人として生活していくので、社会人としてのマナーをより学んでもらいたい。

(様式2)

令和2年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立山県高等学校

学校番号 16

I 自己評価

1 学校教育目標	校訓「自主積極」の精神のもと、真理と正義を愛し、個人の価値観を尊び、自由と責任を重んじ、心身ともに健康で、国際社会や地域社会に貢献できる心豊かな人材を育成する。 実践項目 (1) 基礎学力の定着 (2) さわやかな挨拶の励行 (3) 部活動の充実 (4) 環境美化の推進	
2 評価する領域・分野	◇進路指導	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・本校の進路指導については、保護者及び生徒から概ね肯定的な評価を得ている。特に進路情報の提供については評価が約90%である。進路希望に沿った適切なアドバイスをするということについても評価が90%を超えている。「わからない(評価E)」との回答が昨年は上昇していたが、昨年は同様保護者で約7%、生徒で約3%である。特に地域創生キャリアプランナー制度を活用して、企業の求める人材に対する個に応じた進路指導をすすめていきたい。1,2年生の保護者及び生徒に対する情報の提供と説明について、さらに充実させていきたい。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇3年間を通じた進路ガイダンスや進路体験学習の充実を図る。 ◇個に応じた進路選択ができる積極的な進路相談を推進する。 ◇全職員の共通理解と協力体制のもとでの進路指導の充実を図る。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	早期から学年や他の分掌との連携・協力のもと、全校体制で生徒の進路実現へ向かう。	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 個に応じた進路指導 (2) 進路ガイダンスの充実 (3) 進路体験学習の充実 (4) 進学補習の充実	(1) 生徒の進路実現 90%以上 (2) 進学補習への参加率 50%以上 (3) 進路講話、ガイダンスの取組状況 生徒アンケート (4) 地元企業・施設研修の取組状況 生徒アンケート (5) 特別面接指導での取組状況 外部の意見	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
(1) 個に応じた進路指導 年間を通しての補習、小論文指導、進路相談会 (2) 進路ガイダンスの充実 (1)進路ガイダンス 1年12月、2年1月 (2)3年進路、就職ガイダンス 9月 (3)1,2年生進路講話 11月 (4)3年生の体験報告 1月 (3) 進路体験学習 (1)夏休み進路体験(職場訪問、オープンキャンパス) 2年夏休み (2)地元企業・施設研修 中止	① 生徒の進路実現 ② 補習、小論文指導の実施 ③ 面接指導の実施 ④ 進路ガイダンス、講話の実施	A B C D A B C D A B C D A B C D
11 成果・課題	○各クラス担任に企業の求める生徒像の分析を知らせたことが、適切な指導につながった。 ○就職希望者に対する面接指導では、学校全職員、外部講師、学校関係者(PTA役員、学校運営協議会委員、同窓会役員)の協力を得て、充実した実施ができた。 ○1,2年生の進路ガイダンスや進路講演会が進路意識の高まりを後押しした。 ○保護者懇談時の進路相談会や補習など、希望に即した行事への参加生徒が増加した。 ○就職・進学の受験報告書が提出され、次年度以降の参考資料として活用できる。 ▲早期から進路活動ができるように進路意識の向上を図る。	
		総合評価 A B C D

12 来年度に向けての改善方策案

- (1) 就職・進学関係の1年間の流れを共有し、見通しを持たせて生徒への指導ができるようにする。
- (2) 生徒の希望に沿った進路相談会、補習についてさらに充実できるように工夫する。
- (3) 3年生の地元企業・施設研修がより実りある研修となるよう考える。

II 学校関係者評価

実施年月日：令和3年2月22日

【意見・要望・評価等】

- ・コロナ禍の中でのご苦勞も数多くあったと思いますが、進路実現のため適切な指導が行われた結果が総合評価Aだと考えます。
- ・企業、地域との連携については、今まで以上に確実にし、山県高校生の良さを発信し、強固にしていたきたいと思います。そのために卒業生の定着率（離職率）を追跡できると具体的なアピールができるのではないのでしょうか。
- ・コロナ渦の中、地元企業・施設での研修が中止されたことは生徒にとっても残念でしたね。しかしながら、単位制導入より2年目、地元製造業に特化した企業実習は県内でも類を見ないという点で、山県高校ならではのオリジナリティを發揮した。これからも他県の見本となるよう頑張ってください。
- ・就職合格100%が素晴らしい。
- ・進路実現に向けての学校の取組は、大変良いと思います。
- ・早い段階から進路ガイダンスの充実を図る必要があるのではないかと。

(様式2)

令和2年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立山県高等学校

学校番号 16

I 自己評価

1 学校教育目標	<p>校訓「自主積極」の精神のもと、真理と正義を愛し、個人の価値観を尊び、自由と責任を重んじ、心身ともに健康で、国際社会や地域社会に貢献できる心豊かな人材を育成する。</p> <p>実践項目 (1) 基礎学力の定着 (2) さわやかな挨拶の励行 (3) 部活動の充実 (4) 環境美化の推進</p>	
2 評価する領域・分野	◇家庭・地域との連携	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<p>・家庭との連携に関して、「一斉配信メールサービスは有効に活用されている」(93.5%⇒95.7%)は、評価は高い。「学校の教育方針や指導の内容を保護者(地域)へわかりやすく伝えている」(75.7%⇒87.8%)、「ホームページ等で様々な情報を伝えている」(85.3%⇒95.6%)、「学校からの連絡文書等は、保護者に確実に届けられている」(72.4%⇒86.9%)、「学年通信やクラス通信をとおして、主体的に進路を選択し、決定できる能力の育成を図っている」(76.4%⇒87.8%)は、昨年と比較し、大幅に評価を上げている。</p> <p>学校からの連絡文書等の伝え方については、一斉メールを含めて工夫をする必要がある。</p> <p>・地域との連携に関しては、「地域に開かれた学校づくりの取り組み」(80.5%⇒94.8%)が大幅に増加した。</p> <p>・昨年度と比べ、今年度はアンケート全体をとおして「評価する」の回答が増加した。コロナ禍で、多くの活動が制限される中でのアンケート実施であったが、来年度は本来の活動に戻ってからの評価になるだろうと思われるので、今年度の反省を活かした取り組みをし、内外にアピールをしたい。</p>	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇家庭や地域との連携の強化 ◇地域行事への積極的参加 ◇地域への積極的情報発信	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	教務部の情報担当を中心に、各分掌、各学年と連携を取り、メール配信やホームページを通じて、充実した情報発信を続けていきたい。	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 学校行事への保護者の参加 (2) 各種広報物配信、HPの充実、メール配信 (3) 地域行事への積極的な参加 (4) 学校間交流の実施	(1) P T Aの出席率 外部からの声 (2) 各種広報物の発行回数、新聞取材回数、HPの更新回数 外部からの声 (3) 地域ボランティア等の活動人数 外部からの声 (4) コロナ感染症対策ため全て中止となった	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
(1) P T Aによる挨拶運動。 (2) 広報の充実(山高だより、学年通信、中学校に広報ボード、新聞記事の校内掲示)、メール配信、HPの更新。 (3) 地域清掃ボランティア、警察との連携活動。 ・コロナウイルス感染症対策のため、多くの連携事業が中止となり、活動が大幅に減少した。特に学校間交流については、実施する機会がなかった。	(1) 挨拶運動年3日実施 (2) 学校評価の向上、HPの更新回数継続(月3~4回)、新聞記事数(6回) (3) 地域ボランティア、警察との連携に積極的に活動	A (B) C D A (B) C D A (B) C D

11 成果・課題	<p>○一斉配信メールでは自然災害対応などの緊急の連絡は、細めに配信し、普段の学校行事案内、定期考査や試験、各種検定、月間行事予定ホームページ掲載などのメールも随時配信している。ホームページの更新回数は、新規の記事掲載が約 38 本（昨年 100 本）であった。ホームページの閲覧者数は 1 日平均 65 件（昨年およそ 60 件/日）となった。</p> <p>○P T A 挨拶運動では、役員の方には積極的に参加していただき、行事をスムーズに進めることができた。</p> <p>○近隣の 8 中学校に学校紹介の掲示板（広報ボード）を設置していただき、定期的に更新し学校の P R に努めた。記事のデザインを見直し、興味を持ってもらえる内容に変更した。また、学校行事や生徒の活動のごとに、新聞社に取材依頼を送り、できる限り生徒の活躍を新聞に取り上げていただけるよう努力している。掲載件数は 6 件（昨年度 9 件、校長室前の廊下に『山高生の活躍』として掲示中）</p> <p>○普通科単位制となり、4 つの種類の学習が本格化した。それに伴う「デュアルシステム(企業実習)」や「ものづくり講座」などの実施に向けて、地域企業や関係機関には、多岐にわたり助言や提言、協力、援助をいただいている。</p> <p>▲コロナウイルス感染拡大により、地域のボランティア活動、介護施設訪問、保育園や小中学校との交流活動、近隣中学校との部活動合同練習、吹奏楽部の依頼演奏などが中止となり、残念な思いをした。</p> <p>▲P T A 総会、学校行事等への保護者の参加は、年々、減少傾向にある。今までの内容を見直し改善することで、コロナ禍が明けてからの保護者の参加を増していきたい。</p> <p>▲地域における本校への信頼度はまだまだ高くはなく、地域や保護者に向けて多様な情報をより継続的に発信していく必要がある。</p>	<p>総合評価</p> <p>A (B) C D</p>
12	<p>来年度に向けての改善方策案</p> <p>(1) 来年度は新型コロナウイルスの感染が落ち着くことを願い、本校の教育活動についての情報発信を積極的に行うことで、生徒及び保護者等の学校への関心を向上せたい。</p> <p>(2) 地域行事への参加、地域の学校との交流など校外活動に積極的に出かけ、その様子を新聞や地域の広報誌等に記事として取り上げてもらえるよう更に働きかける。地域との連携や開かれた学校づくりの取り組みを保護者や地域に認知していただき、本校に期待を持ってもらえるよう努めていきたい。</p> <p>(3) 保護者や地域の方々に、学校へ来ていただき、学校の教育活動を理解していただける機会を多く企画する。</p> <p>(4) 地域や関係機関には、普通科単位制の 4 つの種類の教育活動も含めて、今後も様々な面で支援をお願いし、アイデアをいただくとともに、今まで以上に生徒を積極的に地域活動に参加させ、連携を深めていきたい。</p>	

II 学校関係者評価

実施年月日：令和 3 年 2 月 2 2 日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページが、丁寧に更新されていると思います。今後も家庭・地域への情報発信を確実にお願いします。 ・コロナ収束後は、生徒の活動が色々と期待できるでしょう。そのためには、何ができるかやりたいか等、生徒会、生徒の声を集めつつ準備していただけたらと思います。 ・学校からの依頼はどんどん配信していくべきかと思います。今はペーパーレスの時代ですから、メール、P C 等を大いに活用してってください。 ・M S リーダーはじめ、単位制、デュアルシステムのアピール、新聞掲載や地域、中学校への情報発信などより一層の継続的な活動を期待します。 ・一斉メール配信は、朝の健康観察などで活用されていると思う。 ・H P で学校の様子を知ることができるのは良い。 ・コロナ禍のため、地域との交流活動が今年度はできなくて残念でした。 ・地域連携を今後もっと充実させ、社会との関わりを持つことは良いと思われれます。学校のイメージアップにも繋がるのではないのでしょうか。 ・地元の学校として、地域との連携は重要と考えていますが、現在のコロナ禍の状況では困難だと思います。コロナ収束後に期待するところです。
